

平成24年7月13日（金）、愛知県東浦町民生委員・児童委員協議会のみなさん約70名が、長久手市を訪問し、長久手温泉「ござらっせ」、あぐりん村、ゴジカラ村等を視察されました。その際、福祉の家において、吉田市長の講話を聞いていただきました。

みなさん、こんにちは。長久手市長の吉田一平です。今日は、ようこそ長久手へお越しくださいました。今日は、私が今、取り組んでいること、思っていることについて、みなさんにお話しをしたいと思います。

私は、市長になる前は、先ほどみなさんが見学された「ゴジカラ村」に携わっておりました。ゴジカラ村では、“混ざって暮らす”をテーマに、いつも未完成を目指して取り組んできました。

～あいさつは、住民と役所の垣根を低くする第一歩～

さて、市長に就任して約9カ月が過ぎました。この9カ月は、私の感覚がおかしいのか、行政の感覚がおかしいのか分かりませんが、ずっと異文化に入り込んだ気分でした。ただ、9カ月が経って思うことは、役所の人間は何でもオールマイティにできるので、スゴイということです。

ただ、何でもできる職員なのに、なぜか「笑顔であいさつ」ができません。私は9カ月間、①笑顔であいさつ ②目を見て話を聴く ③「してあげる」から「させていただく」を職員に呼び掛けてきました。特にあいさつは、住民と役所の垣根を低くする第一歩だと思っています。予算もかからないことですので、ぜひ、職員には実践してもらいたいのです。

その次に私が職員に呼び掛けていることは、「現場に行く」です。机上ではなく、現場で困っている人を助けていけるようにしたいと考えています。しかしながら、「現場に行け」と呼びかけても職員はなかなか現場に行こうとはしません。どうしてでしょうか。

これまでの50年間で、住民はお金を稼ぐためにまちの外に出て行きました。それまで地域で力を合せて行っていた道役などを地域で行うことはなくなり、「役場にお金を払っているんだから、何でも役所にやってもらえばいい」という考え方に変わっていきました。

役所の職員は、現場に出て人に会うと、「何か意見・文句を言われる」「意見を言われたら対処しないとイケない」と思い、外に出ないようになったのではないのでしょうか。こうした役所の職員の在り方は、良い悪いではなく、そういう風に住民がしてしまったのだと私は思っています。

～誰にでも「たつせがある」社会に～

市の事業で、つい先日、390人が参加して「長生学園」というものが行われました。これは、65歳以上の方が長島温泉へ行くというものなのですが、この事業に職員が15人位同行しています。役所の事業の予算には、人件費が計上されませ

ん。役所の人間の時間単価が 3,000 円位ですから、この 1 日だけでも 30 万円位の人件費がかかっています。一方、参加者を見てみると、私よりゴルフの飛距離が出る人が元気に座っていらっしやる。そういう元気な人に比較的安価な時給で取り回しをお願いして、役所の人間はもっと別なことに労力を割く必要があるのではないかと考えています。

今年、市役所に「たつせがある課」というのを作りました。「たつせがある」は私の造語ですが、誰にでも役割と存在価値があるという意味です。今、「たつせがある課」と住民とで地域共生ステーションという住民の居場所を作るにあたり、どういう施設にするか、そこで住民が中心になって何を行うかの議論を、ワイワイガヤガヤと進めています。議員さんから「地域共生ステーションは、いつから始めるんだ」と質問をもらいますが、施設のオープニング式典が始まりではなく、こうしてワイワイガヤガヤと話し合うことから既に事業はスタートしていると私は思っています。

今は、プロセスが大事な時代が変わってきました。職員も議員も結果をすぐに求めますが、職員がテキパキやらずに、反対にちっとも取り組まず、業を煮やした住民が「もういい！自分たちでやる！」と言って元気になって、「たつせがある」状態になってもらえばいいと思っています。

～時間に追われない国、時間に追われる国～

この50年間の「失敗を許さぬ社会のありようが、子どもたちを苦しめている」と私は思います。会社も職場も学校も結果を求めて、締めつける社会になってしまいました。でもそんな社会は、結果的に自分たちを、子どもたちを、孫たちを苦しめている社会になっていないでしょうか。

私は、30年、ゴジカラ村に携わって、世の中には「時間に追われない国」の人と、「時間に追われる国」の人がいるということに気付きました。今の世の中、子どもたちは「時間に追われない国」の住人だったのに、成長するにつれ、訓練して、「時間に追われる国」の住人になります。親は、学校や会社で鍛えられて、家でも「時間に追われる国」の価値観で子どもに接してしまい、その結果、子どもたちがおかしくなってしまうと思います。

右肩上がりの経済成長の社会が行き詰まっている今、そして人類が初めて体験する人口減少社会がやってくる今、「時間に追われる国」の能力を身につける必要のない時代が来たと思います。役所の在り方が変わってもいいのではないかと思います。

社会の仕組みを作り直すことが、「日本一の福祉のまち」の実現への第一歩だと思います。住民も職員も、そんな「時間に追われない国」の価値観を身につければ、ここ長久手から日本が変わると思います。

どこまでできるかわかりませんが、やってみる価値がある取り組みだと思っています。